

2012年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	法学部	身分	教授
氏名	秋山 嘉		
NAME	Yoshimi Akiyama		

1. 研究課題

(和文) イングランド庭園論再考

(英文) Revisiting English Garden Thoughts

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文600字程度、英文50word程度）

申請書の研究計画に記した方針にしたがい、デジタル特にPC環境の整備をはかった。それにより目的とするイングランドのテクストの検索が大変に能率よく行えるようになった。人文研の翻訳叢書第11巻の第1章および概説部分(あとがき)にもその成果を生かすことができた。

2012年より使用可能となった中央大学図書館データベース、特に、EEBOならびに嶺卓二先生寄付によるECCOを、上記PC環境によって十全に活用できることとなったのは、本研究計画にとって大変な恩恵となった。

17世紀英国という動乱の時期を含んだ時代にあって、内戦状態あるいは革命を起こした側とそれに対した保守的体制側との両者にとり庭園が、それぞれ互いに異なった政治的意味を帶びていたことは従来多くの研究がなされてきたところである。

それら著名な例をはじめ、上記データベース等による検索検討によって確認されることであるが、この囲われた庭という、中に閉じ込めると同時に中を守るという両義性のうちに、この時代のほぼすべての庭園概念、つまり既存の2項の間を隔てる存在としてのそれがある。

しかし、今回の精査によって、庭を一種の中間領域と見るスタンス、両義性をもつ緩衝空間であるという曖昧さこそが、自由を孕む可能性として少数だが存在していることが分かった。以上について近々論文にまとめる予定であるが、さらに詳しい個別の例の検討を引き続いて行いたい。

In the seventeenth-century England gardens were 'enclosed'. That is, they confined people and things inside by wall, and at the same time they keep and guard them by wall. It is generally known that this 'garden' concept or image was common to both the revolutionary side and the conservative (Royalist) side. In this research, however, I have found that a few exceptions of different stance existed. They viewed gardens not as walled forts but as middle space or ambiguous existence. Interestingly enough, such ambiguity could be potentially strong. I will clarify this paradoxical matter by further investigation.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）

秋山 嘉 「カウリーの庭」（仮題） 『人文研紀要』第 80 号 頁数未定

2015 年 10 月（予定） 査読無

【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）

秋山 嘉 「『十七世紀英詩の鉱脈』の検討」 中央大学人文研チーム「十七世紀の英詩とその伝統」公開研究会 人文科学研究所 2014 年 7 月 26 日（予定）

【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）

「十七世紀の英詩とその伝統」チーム訳・編著（うち総説および第 1 章を担当）

中央大学出版部 『十七世紀英詩の鉱脈—珠玉を発掘する』

2015 年 3 月刊行予定（翻訳叢書第 11 卷）

【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）